

農業は心地いい



Uターン農業女子

PROFILE

いわた のりこ
岩田 紀子 さん

梅農家 就農歴27年(榛東村)

榛東村出身。建築系の会社勤務を経て就農。自然農法に取り組み、小梅、白加賀、南高梅の3種を栽培。農的な暮らしが体験できる『農Café』を主宰する。二児の母。

自分が心地いいと感じる農業のカタチ 農カフェで”農ある暮らし”を発信

都会に出て気づいた群馬の魅力

梅の産地である榛東村で、自然農法による梅と米の栽培に取り組む岩田紀子さん。『農Café』として築100年の再生古民家での「農ある暮らし」を、ゆるやかに発信しています。

代々続く農家の長女として生まれた紀子さんは、都会生活への憧れから建築デザインの道へ進み、専門学校を出て東京の会社に就職。25歳で群馬に戻ってからも、店舗デザインやリフォームの仕事に携わっていました。「憧れて出た都会でしたが、群馬に帰ってくるとホッとしたんです」と紀子さん。2000年に実家の養蚕農家を改築。県内の多くの古民家が姿を消していく中、美しい農村の原風景を守っていかなければならないと思ったそうです。

その頃、親戚に貸していた梅林が戻ってくることになり、就農を決意した紀子さん。しかし、一つ問題がありました。

「昔から梅林で作業を手伝っていると農業に反応して手が痒くなったり腫れたりしていたんです。従来のやり方では農業を続けていけませんでした」

自分にとって心地よい農業を求め、農薬も肥料も使わない自然農法で梅の栽培を始めた紀子さん。専門的な知識はなく手探りでのスタートだったにもかかわらず、1年目から立派な梅が実りました。販路を求めてSNSで発信したところ、想像以上の大反響。「こんなにも、自然農法の梅の需要があるのかと驚いた」と振り返ります。

インターネット販売の好調を受け、オーガニック認証をとって海外進出しようと考えていた矢先、東日本大地震が起きました。原発事故の風評被害で全国からの注文が途絶え途方にくれる中、「県内の人が梅を買いに来てくれたんです。自分の足元を見据えて、コツコツやっていくことが大切だと気付きました」と紀子さん。

自然農法の勉強会に参加したり、良い農法があると聞けば遠くま